

慶応二年七月九日より慶応二年七月十二日まで

P8310606 right

出 殿、医長春院来り□転病を診察せし旨、南洋の紹介による、治療入費用壹円□転方へ遣す、婢ともに帰り来る母の病追つて快方に赴く由也、朝比奈(甲)金港より帰着、伊太利条約仏文を以て原と

いたし談判に渡りし旨、云々申し越す、返書遣す、

九日 丑 雨暁止乍晴

微恙(*1)且調桁に付、宅調、隣家安部(亮)来る、前件次第を以不面、金港太一より伊太利条約書

稿廻し来り調印日限等申し来る、書類甲州へ廻す、須崎(常)来る、其程中云々の義、此の柳亭申し聞く趣まで略述し遣す、朝比奈甲州来り金港引合の義、縷々咄有之、寺沢(為)来り第某面晤の義、頼聞し旨、岡本せきより、紫茄一荷贈来る

十日 寅 晴乍雲雨□過午下雷雨

P8310606 left

太郎□て礫川を問はしむ、番町隠居中元賀に来り織鯧(スルメ)梨子並婢共へ壹米づつ持参、出殿

正覚稽古に来る中元賀金伯母外とも為持遣せし旨、

十一日 卯 晴

表奥其外中元の由、夫れに酬贈並使さし出す命す、広沢(悦)来る、向島須崎より中元として小品さし越す、右使は同邸門番なり、別門番へ柳斎中元御鳥見並村名□且当人への中元を與え夫々

の使を命じ遣す、出 殿、明日午下英公使、御對話有之積り退出薄晩に近し、保三来る児等へ些品持参、柳亭来り、角灯笼、鯉券持参、一泊す是は□により不図得る処あるによる、明朝カシヨシ義大中寺にて会晤致し度旨達し来る、明日英公使(六郷川□に付)御話相□の段、星野□より達し来る

*1: 微恙(びよう) ちよつとした病氣

*2: 鯉券(銀製の薄板で出来た商品券)??

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。